

第5学年「外国語」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果** ○ チャンツや歌の活動を楽しむ様子が見られ、英語のリズムに慣れ親しみながら、自分や身近な話題に関する表現を身に付けることができる。
- 表現を身に付けることができた時は、友達とのコミュニケーションを楽しく図る様子が見られる。
- 課題** ▼ 発音を気にしたり、表現を覚えづらかったりする児童が多く、安心してコミュニケーションをとるまでに時間がかかる。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 聞く、話す、書くコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な知識と技能。
- ◇ 外国の言語や文化について体験的に理解を深め、積極的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度の育成。

具体的な改善策

主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- 毎授業、チャンツや歌の活動を取り入れることで、単元の基本表現について自信をもって発音し、積極的にコミュニケーションを図ることができるようにする。

言語活動の工夫

- ALTと協力し、単語を繰り返し発音したり、補助的に訳したりして英語の理解を図りながら、英語の発音や会話表現に触れる機会を増やす。

ICT活用の工夫

- デジタル教科書を用いて基本表現を使用する場面や状況の理解につなげる。
- デジタル教科書を用いて母国語との発音やリズムの違いに気付けるようにする。

課題解決力育成の工夫

- コミュニケーションの場面や目的を整理しながら基本表現を示すことで、状況に応じて、自分の考えを整理し、表現できるようにする。

達成目標

- 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語のはたらきなどについて理解し、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付ける。
- 目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について聞いたり話したりすることで、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
- 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。